

## 実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 20 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
代表者名	近藤 鉄郎
プラン全体のタイトル	教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発 —町内防災運動会をととした「地域発」の学び—
電話番号	0566-36-8511
メールアドレス	igaya-s.m.k@agate.plala.or.jp
実践団体の説明	井ヶ谷町内会は、市内でも地域活動が盛んな自治会であり、体育部は町内会の有志によって組織された約 25 名の団体である。体育部が中心となって運営する最も大きな町内行事が防災運動会で、第 40 回記念大会を迎える歴史がある。
所属メンバー	[代表・広報担当] 近藤 鉄郎 (体育部長補佐/防災士) [実践担当] 佐々木 由香 (体育部長補佐) [実践担当] 樋江井 守 (体育部長) 村川 直也 (体育部員・愛知教育大学卒業生/教員) 守永 達哉 (体育部員・愛知教育大学 2 年) [統括担当] 生嶋 亜樹子 (体育部員・山口大学教育学部)
活動地域	愛知県刈谷市井ヶ谷町/愛知教育大学
活動開始時期・結成時期	1979 年 (第 1 回町内運動会実施年)
過去の活動履歴・受賞歴	2020 年度防災教育チャレンジプラン実践団体 2021 年度防災教育チャレンジプラン実践団体 平成 4 年度刈谷市「元気な地域応援交付金」事業 採択
プラン全体の概要	○ 本実践は、愛知県刈谷市の北部に位置する、井ヶ谷町(人口約 5,000 人)の町内会の有志によって組織された体育部を中心とした活動である。町内に災害時の指定避難所でもあり実践の交流先である、教員養成大学(学生・教職員の最大数約 5,000 人)を有する。自宅通学生が多いという特徴もあり、町内に対して多くの学生「学内のバス停から、来て帰って行くという通過するところではない」「全然関わりがない」(学生インタビュー・2019 年)という意識をもっていた。

- 対して井ヶ谷町には、「井ヶ谷町を好きな方がものすごく多く」（体育部インタビュー・2019年）、地域住民と学生との交流が少ない現状を「すごくもったいない」（同）と感じており、「学生さんを自分の町内で育てて、立派に先生になる」（同）、そのことが「双方にとって生きていくうえでの財産になる」（同）ことを期待する、熱い思いがある。
- このように教員養成大学をもつ町内で醸成されてきた、地域にある潜在的な「教育の力」を背景に、地域住民と学生が平時より顔を知り、声を掛け合える関係性を築き、有事の際に助け合えるよう、そのきっかけとしての防災運動会を、実践活動の中心とした。
- 活動をとおして、現行学習指導要領で一層重視されている、防災教育の将来的な担い手としての知識・技能を身につけるための支援を行うことを、実践活動の主たる目的とした。地域の教員養成大学の学生の町内防災運動会への参画をとおして、地域住民が防災意識を高めること、指定避難所の運営につながる知見や体験の獲得が期待される。
- 2021年度の実践と同様に、年度当初より学生がまずは井ヶ谷町内を知るために、既存の町内行事に参加してもらい地域住民と交流を深めてもらうことから始めた。
- 体育部が中心となって企画する町内行事のうち、井ヶ谷町内運動会と新春ウォーキングについて、町内の大学であり災害時の避難所となる愛知教育大学で実施した。
- その他、運動会同日に初の試みとして大学体育館で実施された避難所宿泊体験で、防災講話を行った。
- 今年度より、町内防災運動会への参画を中心とした地域活動への参加が、大学の授業の単位として位置づけられた。町内と大学の連携・協働のもと、地域に根ざした防災教育の年間プログラムの開発の第一歩としたい。

## プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月			学生歓迎会【実践1】
5月			町内体験活動(1)【実践1】
6月			町内体験活動(2)【実践1】
7月	大学・町内の会議①		
8月	大学・町内の会議②		
9月	大学・町内の会議③	防災運動会 準備	
10月		防災運動会 準備	町内体験活動(3)【実践1】 町内防災運動会【実践2】 避難所宿泊体験【実践3】
11月			防災運動会 反省会
12月		新春ウォーキング 準備	
1月			新春ウォーキング【実践4】
2月	まとめ・次年度計画		
3月	まとめ・次年度計画		町内体験活動(4)次年度準備

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>○ 町内運動会(第40回記念大会)を3年ぶりに実施できたことが最大の収穫であった。2年の時間を“待た”ことが、町内という組織を考えたときの最適解であったように思う。</p> <p>○ 今年度も学生団体(地域連携サークル「かきつばたの民」)と協働して活動を重ね、授業(単位化)の一環としての地域における活動が充実・拡大しつつある(体育部に卒業生1名と学部生1名が正式加入)。</p>
今後の活動予定	<p>○ 大学と連携して初開催となった町内運動会の今後の展開について、学生と町内との関係構築も含めて検討していく。</p> <p>○ 授業の一環として井ヶ谷町内の活動に参加した学生に、1年間の活動を終えた時点で聞き取りや追跡調査を行う。井ヶ谷町内が、地域の大学のためにできることについて、引き続き考えていきたい。</p>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 10 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 1
タイトル	防災教育年間プログラムの単位化へ向けた教員養成大学の学生サークルとの連携 (井ヶ谷町内体験活動)
実践担当者のお名前	樋江井守 (井ヶ谷町内会体育部長) 白崎祐理子 (愛知教育大学学生団体 かきつばたの民 代表)

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 4 月 1 日～西暦 2022 年 3 月 31 日
実践の所要時間	7 回の活動の合計で 40 時間
実践の運営側で動いた人の人数	30 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・大学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障がい者・養護学校児童生徒・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	愛知県刈谷市井ヶ谷町 愛知教育大学 (井ヶ谷町内)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	教員養成大学の学生が、将来の防災教育の担い手となるための知識・技能を身につけるため、井ヶ谷町内や大学を実践の場として地域住民と連携しながら、町内の人・もの・ことを知るための活動を行う。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>2021年5月に大学の公認団体となった学生団体「かきつばたの民」と連携し、学生が井ヶ谷町内をよりよく知ることをねらいとして、年間をとおして、既存の町内会の活動の一部を、新たに学生の参加・協力のもとで行った。</p> <p>①愛教大生歓迎会（2時間）</p> <p><u>概要</u>：学生団体「かきつばたの民」の企画・運営による開催。参加者は、下宿学生・自宅生／1年生・2年生以上を含め約30名。</p> <p><u>活動のねらい</u>：学生の生活の場となる井ヶ谷地域の様々な場所や人を知るきっかけをつくる。特に下宿学生は生活する上での不安や困りごとを解決する場として、地域住民や下宿学生同士のつながりをつくり、年間をとおした井ヶ谷町内での活動の見通しをもつ。</p> <p>②かきつばた除草 春・秋（4時間／4日間）</p> <p><u>概要</u>：地元有志により1976年に結成された「かきつばたを守る会」による保護活動。年に2回（4月・9月）の除草作業を企業や学校などのボランティアの協力のもと実施している。茶屋川園ビオトープの清掃も同日に実施。</p> <p><u>活動のねらい</u>：井ヶ谷町内の国指定天然記念物 かきつばた群落と、それを守るための活動を知り、共に除草作業を行うことをとおして、地域住民と交流する機会をもつ。学生が、町内で顔と名前がわかり日常の交流をもてる関係づくりのきっかけとしたい。</p> <p>③かきつばた巡視・見学（3時間／1回）</p> <p><u>概要</u>：「かきつばたを守る会」によるかきつばた開花時期における見学者への案内・巡視活動の見学。期間は5月上旬から下旬（9時から16時頃まで実施）、常時、守る会メンバー5、6名が参加。（2021年度は「かきつばたの民」の案内とフォトコンテストの企画により、平日に多くの学生が見学した。）</p> <p><u>活動のねらい</u>：井ヶ谷町内の国指定天然記念物かきつばた群落に多くの見学者が訪れていることを知り、見学者に対する案内と巡視活動の内容を理解し体験する。地域の自然のよさと、その魅力を守り伝えようとする住民の活動にふれる。</p> <p>④子ども会ホタル放流（2時間）</p> <p><u>概要</u>：子ども会の行事として、地元企業の協力のもと管理されている</p>
---------	--

茶屋川園ビオトープで行っているホタル放流会。小学生を中心に約 50 名の子どもと保護者が参加。5 月 5 日（祝）に実施し、学生たちが子どもたちの誘導や放流の支援などを行った。

活動のねらい：地域の子ども会の行事について理解し、子どもたちとふれ合いながら共に活動を行う。また、子ども会の行事の実施を支える地域住民の活動や、町内会と行政や企業との連携・協働のあり方について理解し、体験する。



子どもたちを安全に誘導する学生たち

#### ⑤ 体育部芋植え（3 時間）

概要：体育部の行事として行っている活動。畑の所有者による植え方の指導を受けて、参加学生が約 100 本の苗を植える活動に参加する。町内の参加者は、体育部約 15 名。

活動のねらい：自然と触れ合いながら農作業の楽しさを体験し、井ヶ谷地域の住民の生活の場や様子を知り、地域住民との交流を深める。

#### ⑥ 体育部芋掘り（3 時間）

概要：体育部の行事として行っている活動。2022 年 10 月 8 日（土）に実施。鍬の使い方について指導を受け芋掘りを体験する。収穫した芋は当日の参加者に配布した他、1 月の新春ウォーキングの焼き芋として使用。町内の参加者は、体育部約 15 名、子ども会約 40 名。

活動のねらい：自然と触れ合いながら農作業の楽しさを体験し、井ヶ谷地域の住民の生活の場や様子を知り、地域住民との交流を深める。



子どもや地域住民と一緒に活動する学生たち

⑦ SUHARA MUSIC FES (10 時間・5 月実施予定、年度内は計画のみ)

概要・活動のねらい：地域の音楽祭の準備・運営に学生が関わりながら、地域住民の文化活動について理解を深める。

○その他、実践 2 の町内防災運動会、実践 4 の新春ウォーキングも一連の活動に位置づく。

得られた成果	・身近な地域にある様々な事象に興味関心を持ってもらうきっかけとなった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	○ 2019 年の運動会への 1 人の学生の参加に始まり、コロナ禍を経て 2021 年 5 月に学生による大学公認サークル立ち上げに至ったことは、学生の町内での活動を継続性のあるものにする上でも価値があった。	
	サークルの代表学生を窓口として、日常的な地域住民とのコミュニケーションが深まってきており、平素の関係構築が有事の防災行動につながることを感じている。	
	○ 大学の授業等のため学生の参加が難しい場合もあるので、町内側で	

	適切に調整を図りながら連携を進めていく必要がある。学生が楽しんで参加できるよう、活動をとおして学生が何を獲得できるのかの見通しを示すことができるようでありたい。
--	--

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学 地域連携センター 愛知教育大学 学生団体「かきつばたの民」
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	防災を考える前提としての、「地域を知り、地域の人に出会う」ことをねらいとした活動が必要だと感じています。将来、教師になる学生が赴任した地域に愛着を持つことができるような原体験を、どこかで（生まれ育った場所でなくとも）積むことができればそれは、普遍的で汎用的な資質になるのではないかと考えます。



## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 10 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 2
タイトル	町内防災運動会 第 40 回記念大会
実践担当者のお名前	樋江井 守 (井ヶ谷町内会体育部長)

実践にかかった金額	100 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 10 月 16 日 8 時 00 分～13 時 00 分
実践の所要時間	5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	40 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・高校生・大学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障がい者・養護学校児童生徒・高齢者・防災関係者・全ての人々
防災教育の対象者の人数	約 300 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	愛知教育大学グラウンド (サッカー場)
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	大学生の ICT 活用能力

達成目標	大学生が、例年多くの住民が参加する運動会の、企画・運営、当日の競技に参加することにより、地域の行事をとおして地域住民が交流を深め、防災意識を高めることに意義とよさを体験的に理解する。	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>○ 2020 年度のチャレンジプラン採択時より、実践の中心としてきた町内運動会で、1979 年に町内の有志で始まり今回で第 40 回を迎える。</p> <p>従来、町のグラウンドで実施してきた運動会を、チャレンジプラン採択を機に、災害時の避難所である愛知教育大学と連携した実施と、防災に関する内容をより多く取り入れた内容として検討してきた。コロナ禍での 2 度の中止を経て、2019 年 10 月以来の、3 年ぶりの実施となる。</p> <p>【準備段階—2021 年度の準備状況と実施前日まで】</p> <p>○ 2021 年の運動会が直前で中止であったため、大学との連携実施については、前年度より、大学の担当部局（地域連携センター）と町内（地区長・体育部）で十分に議論されていた。今年度は、町内会側の対象を拡大し、自主防災会にも出席いただき、7 月より 3 回の会議を実施した。</p> <p>○ 9 月 17 日（土）に、体育部で用具点検を行った。3 年ぶりの開催であるため、マニュアルやメモとして残していない事項の確認や、用具の補充や修繕を要する箇所のチェックに時間を要した。</p>  <p>用具点検（2022.9.17）の様子。手づくりの道具も多数ある。</p> <p>○ 9 月初めに、学生団体「かきつばたの民」で活動する学生より提案を受け、動画配信（試行）とドローンを用いた空撮を試みることにした。現在小中高等学校では、動画配信、ドローンの活用ともに多くの実践例があるため、現場での実践例にも学びつつ準備に取り組んだ。</p>
---------	--

○ 10/15（土）、前日準備（チャレンジプラン中間報告会と同日）。日ごろ部活動で使用されている大学グラウンド（サッカー場）を、土日両日使用させていただき、午前9時より設営作業を行った。事前に十分、計画を立てていたが、整地作業やライン引きに時間を要した。町内会のメンバーに加えて大学生の力も借りながら、前日準備を終えた。



3年ぶり、ようやくの入场門

【実施内容】

○ プログラムは以下のとおりである。8種目の防災競技を行った。

順番	開始時間	種目	参加者区分	区別
1	9:00	選手入場	全員	—
2	9:10	開会式	全員	—
3	9:20	準備体操	全員	—
4	9:30	割るな！防災缶はこび	小学生・一般	自由
5	9:40	バケツ消火水リレー	小学生・一般	得点
6	9:55	親子で防災グッズ	親子（幼児）	自由
7	10:05	防災リレー	小学生・一般・60才以上	得点
8	10:20	盆踊り	全員	自由
9	10:35	距離ピタ	中学生以下	自由
10	10:45	親子で避難	親子（幼児）	自由
11	10:55	消火水くみりレー	小学生	得点
			一般	得点
12	11:15	空き缶つりで防災グッズゲット	小学生・一般	自由
13	11:25	年令別リレー	小学生・一般	得点
14	11:40	防災YES/NOクイズ	全員	—
15	11:55	成績発表・閉会式	全員	—

○ 前回 2019 年を越える約 300 名の参加（うち大学生約 30 名）があり、地域のケーブルテレビ（キャッチネットワーク）でも大きく取り

上げられた。

【実施後のふり振り返り】

○ 11/26（土）体育部反省会、12/5（月）2023年度の刈谷市「元気な地域応援交付金」応募に要する住民会議が開催され、実践を省察する二度の機会があった。

○ 住民会議では、刈谷市まちづくりコーディネーターの方々の支援のもと、グループに分かれてテーマについてディスカッションを行った。

運動会に参加した大学生も交え、真剣な議論となった。



住民会議でのワークショップの様子

<p>得られた成果</p>	<p>○ 大学生に年度当初より、体育部内の会議や町内会と大学（地域連携センター）との会議に同席してもらい、町内行事の実施へ向けて準備を行う過程を体験してもらうことができた。ポスターの製作など昨年度までに依頼してきた実務に加え、今年度は新たに、ICT 機器等を活用した前日・当日の運営に協力を依頼した。動画配信（試行）も実現し、町内の ICT 活用を検討する契機となった。</p> <p>○ 盆踊りに続いての、対面での町内会行事の再開であったが、前回を超える参加者があったことから、コロナ禍を超えて地域住民が町内の行事に期待を持ってきていることを予想させる結果となった。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>○ 2年にわたり運動会が中止となったが、その期間を大学と学生を巻き込み町内が一体となって運動会を実施するための企画をあたためる時間と考え、大学との連携構築を進めてきたことが形になったと思う。</p> <p>○ 四十数年の歴史ある運動会の実施場所を町内から大学グラウンドとすることに際して、町内会本体で随分と協議していただいた。連携が一時のものでなく、継続的・発展的なものになるよう尽力したい。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>愛知教育大学 地域連携センター、保健体育講座・縄田亮太先生</p>
<p>関係者の説明</p>	
<p>関係者の連絡先</p>	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>コロナ禍の3年を凌いだ町内というパワーを、ポストコロナの時代においてどう活用できるのか、井ヶ谷町内運動会40年の歴史とともに考えていきたいです。</p>

## 実践したプランの内容と成果

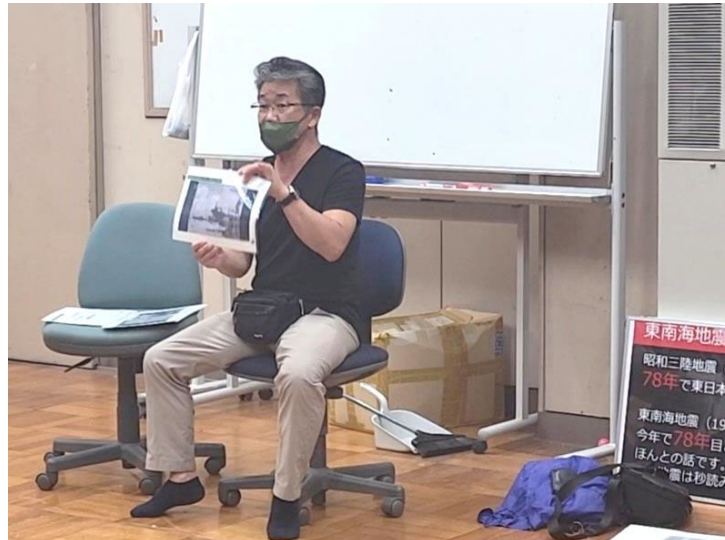
記入日	西暦 2023 年 1 月 10 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 3
タイトル	避難所宿泊体験における防災講話
実践担当者のお名前	近藤 鉄郎 (井ヶ谷町内会体育部)

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 10 月 16 日 20 時 00 分～8 時 00 分
実践の所要時間	12 時間
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	大学生・教職員/保育士等・地域住民・社会人
防災教育の対象者の人数	約 8 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所	愛知教育大学第 2 体育館
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	災害を「自分ごと」としてとらえ、今、住んでいるこの井ヶ谷に災害が発生した際に何をすればよいのか、どう備えればよいのかを、これまでの三河地域で起きた地震を例として考え、行動することができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

- 愛知教育大学保健体育講座 縄田亮太先生の依頼を受け、大学体育館で実施された避難所宿泊体験において、防災士の資格をもつ体育部員が少人数での実施の場を活かした対話型での防災講話を行った。
- 大学近隣の住民も参加し、ポリ袋を活用した炊飯を体験した。



東南海地震の話に聞き入る学生たちと会場となった体育館

	<p>次頁 ランタンの灯りだけで過ごす学生と教員</p> 	
<p>得られた成果</p>	<p>学生の防災に対する率直な意識と実態をとらえることができ、少人数での実施を活かし現状に合った情報提供やアドバイスができた。大学生を対象としたワークショップや勉強会で活用できる実感が得られた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>○ 避難所体験は町内でもこれから取り組んでみたい活動のひとつであるが、時期や実施規模・人数については検討を要すると感じた。今回は試行的な取り組みとして機会をいただいたが、次年度以降も継続的に検討していく必要がある。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>愛知教育大学 保健体育講座 縄田亮太先生</p>
<p>関係者の説明</p>	
<p>関係者の連絡先</p>	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>体験を通して楽しみながら学ぶことの可能性</p>



## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 10 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部
実践番号	実践 4
タイトル	新春ウォーキング
実践担当者のお名前	樋江井 守 (井ヶ谷町内会体育部長)

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2023 年 1 月 8 日 8 時 00 分～11 時 00 分
実践の所要時間	3 時間
実践の運営側で動いた人の人数	30 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・小学生 (低学年)・小学生 (高学年)・中学生・高校生・大学生・教職員/保育士等・保護者/PTA・地域住民・社会人/一般・女性・障がい者・養護学校児童生徒・高齢者
防災教育の対象者の人数	約 200 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県 刈谷市 井ヶ谷町
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	洲原神社・洲原公園 (愛知県刈谷市井ヶ谷町) 愛知教育大学キャンパス
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	大学生の ITC 活用能力

達成目標	地域住民が指定避難所である町内の大学のキャンパスの様子や防災設備について知り、災害時に大学・地域が連携するための知識・技能を身に付けるとともに、ともに活動することをとおして連携関係を深めること。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

○ 体育部が中心となって企画する新春ウォーキングを、2021年度より大学内をコースの一部として設定した。(以前は地図の右半分、池の周回のみ) 参加者は、災害時の指定避難所である大学の体育館や防災施設を見学しながら、キャンパス内のウォーキングを行った。



大学生が作成した Web と連携したルートマップ

○ 新型コロナ対策として、以前は実施していた集合場所での飲食の振舞いや子ども向けのゲーム等イベントは引き続き中止し、密集しないよう注意しながら行った。昨年と同程度の約 200 名の参加があった。

○ 地域住民にとって、日頃大学キャンパスに足を運ぶ機会は少なく、避難場所を確認する貴重な機会となった。

○ コースは 2 種類を設け、大学キャンパスを周回するショートコース

3.1km、洲原神社と大学に隣接した洲原公園を1周するロングコースは4.0kmの距離がある。体力に合わせ思い思いの速度で歩くため、列が相当に長くなり集団間にも距離ができる。そのため、分岐のポイントを中心に体育部員がコースの誘導やトイレの案内を行う。今回は、高齢の方や妊娠中の方にも積極的に参加いただき、学内のコースでは参加した大学生に当初想定していなかった箇所でのトイレの案内を依頼した。

ポイントで誘導を担当した体育部員が、最後尾より参加者全員が安全にスタート地点に戻るよう確認を行う。



避難所となる体育館を案内する体育部員

- 参加賞として非常食や防災グッズ等を配布し、参加した地域住民や学生の防災意識を高める機会とした。
- 大学より、学長・地域連携課長が参加され、大学施設紹介や大学内の防災施設、災害時の連携に関して、地域住民に説明いただく機会を設けた。

得られた成果

- 防災運動会の企画から継続して、大学生に会議等に参加してもらい、新春ウォーキングでは昨年に続き ICT を活用したマップを配布した。
- 幅広い世代で ICT 機器とりわけ QR コードの使用が身近になったのか、昨年度と比較してかなり多くの参加者が Web マップでのルート確認を行う姿がみられた。町内会における ICT を活用したオンラインベ

	<p>一スの活動の可能性を探る意味で価値ある取り組みであった。</p> <p>○ 昨年度の防災運動会の直前での中止を受け、体育部長の発案により急遽、大学内をコースに加えた運動会の代替企画として始まった大学との連携行事であるが、井ヶ谷町の地域防災において有意義な実践となりつつある。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり (*安全のため自由な行動は制限)
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	<p>前年度は、井ヶ谷地域の住民が、町内の行事でキャンパスを使用させていただくことが初めてのチャレンジであり、準備において大学窓口の地域連携センターや担当教員の方には細かな対応をいただいた。2年目となり運動会での実践を経て、連携がスムーズに進むようになった。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	愛知教育大学学長・野田敦敬先生
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	井ヶ谷地域と大学とが有事の際は、人と人がつながることで「頼り、頼られる」存在になるための、象徴的な行事としていけるよう、今後の継続と参加者増のための工夫をしていきます。